

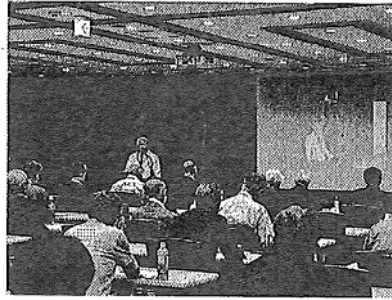
# 天草五橋テーマ

インフラ整備  
70年講演会  
当時の挑戦など紹介

建コン協

建設コンサルタンツ協会（建コン協、中村哲己会長）は「インフラ整備70年講演会（第50回）」戦後の代表的な100プロジェクト」を福岡市博多区のTKPガーデンシティ博多新幹線口で17日に開いた。写真。今回のテーマは「離島をつなぐ夢のかけ橋天草五橋」。橋は西から日は東から」。天草連絡道路（国道266号）の経緯や海上橋梁の新技术への挑戦、天草五橋の成果などを紹介した。

冒頭、山尾敏孝熊本大学



名誉教授が天草五橋建設の経緯を説明。続いてNEXT CO西日本コンサルタンツの福永靖雄社長が当時日本最長のランガートラス橋の

2号橋や日本初の本格的パイプアーチ橋の5号橋など橋梁技術向上のため当時の技術者が行った設計や施工上の工夫を紹介した。

鹿島土木管理本部の矢野一正橋梁統括部長は4号橋施工に携わったOBの話を紹介。橋梁の長大化のために新しい構造の性能確認試験として柱頭部トラス構造の設計などを行ったことに触れ「60年前にこれだけのことを考え工夫し実現したことに改めて感銘を受けた」と話した。

設計や工事に関わった元日本道路公団福岡建設局長の中島英治氏と、元川崎工事取締役西部支社長の加藤捷昭氏へのインタビューで

は「モノが無いなら知恵を出せ」設計と施工の協調」など当時の苦労を思わせる言葉やエピソードを紹介。維持管理については、元

熊本県土木部長の戸塚誠司氏が、代替路線を確保することで災害時の交通途絶リスクの回避や現橋の荷重負担軽減を図り、今後の補修費の削減に取り組むことの重要性を説いた。

講演の最後に山尾氏はさまざまな離島の課題を解決した天草五橋を念頭に「九州は人口減少、巨大災害リスクなどさまざまな課題に直面している。これらの課題を解決し得る一大プロジェクトを九州から立ち上げるのが重要」と述べた。